

が

が

や

き

No.143



白州いずみの家外観



港区立障害保健福祉センター 宿泊訓練



白州いずみの家 夏季研修



港区立障害保健福祉センター

## INDEX

令和7年度第1回総会報告…………… 2  
 第19回東京大集会報告 …………… 3  
 研修委員会 新任職員向け研修会…………… 4  
 児童施設分科会 障害児入所施設交流会…… 5

人権擁護委員会「じんけん Board」 …………… 6  
 施設紹介①「白州いずみの家」…………… 8  
 施設紹介②「港区立障害保健福祉センター」… 9  
 リレーコラム、編集後記…………… 10

●発行所 知的発達障害部会 部会長 金澤正義 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ(<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>)からご覧いただけます。



## 令和7年度 第1回

# 知的発達障害部会 総会

広報委員長 朝山 智美（港区立障害保健福祉センター）

令和7年度第1回総会は、5月28日（水）にオンラインによる開催となりました。

内容は、行政説明・部会からの令和6年度事業報告等と令和7年度事業計画・記念講演のテーマが取り上げられた総会となりました。内容は下記になります

### ●東京都行政説明

東京都における障害者施策について、企画課、地域生活支援課、施設サービス課、より以下の事項について説明がありました。また、あわせて事故防止対策と虐待防止体制整備の徹底について説明がありました。

#### 1. 企画課より

社会福祉施設等への非常用電源等の整備促進事業について

#### 2. 地域生活支援課より

- (1) 障害者支援施設等におけるデジタル技術統括用支援事業について
- (2) 障害者福祉サービス等DX推進人材育成支援事業について
- (3) 強度行動障害児者に対する集中的支援について
- (4) 強度行動障害対応力向上研修について
- (5) 新規採用職員の職場定着支援事業について
- (6) 障害者福祉サービス等職員居住支援特別手当事業について
- (7) 障害福祉サービス等情報公開制度に係る更新手続きについて
- (8) 障害者グループホーム地域連携推進事業
- (9) グループホーム体制強化支援事業について
- (10) グループホーム従事者人材育成支援事業について
- (11) 障害者施設における感染症対策研修・訓練支援事業について

(12) 短期入所の設置促進について

(13) 令和7年度説明会について（グループホーム・短期入所）

(14) サビ管等演習指導者養成研修実施及び受講者推薦について

(15) 演習指導者養成研修案内について

#### 3. 施設サービス支援課より

(1) 地域移行促進コーディネート事業について

(2) 都外入所者地域移行特別支援事業について

(3) 障害者地域生活移行・定着化支援事業について

(4) 支援力育成派遣事業について

(5) 施設整備補助事業について

### ●議決事項

1. 令和6年度事業報告について

2. 令和6年度会計収支決算報告および監査報告について

### ●報告事項

1. 令和7年度事業計画について

2. 本人部会からの報告

### ●記念講演

「令和6年度報酬改定の影響および今後について」講師として東京都発達障害支援協会会長 山下望氏よりご講演いただきました。障害者福祉について障害者福祉サービスの現状を広い視野から、利用者数の推移・事業所数増加の要因・地域差など、報酬改定後に現場で起きている課題に対してのお話と、地域共生社会の実現に向け、社会福祉法人としての役割をどう果たすべきかと各提言も含め大きな視点でのお話でしたが、現場感覚のわかりやすいエピソードを交えながらおはなしいただき、私たちがとても理解しやすいものでした。貴重なご講演ありがとうございました。

## 第19回 東京大集会

# 「くらしの場を選べる社会を目指して」

広報委員 村上 翔 (葛飾通勤寮)

今年で19回を迎える東京大集会が9月4日に飯田橋のセントラルプラザで行われ、同時にYouTubeでの配信も行われました。

障害児者本人が希望したときに「消去法」ではなく、その人にとっての最善の「選択」ができる未来に向けて今を生きる私たちは何をすべきなのか。本人、ご家族、支援者、そして都議会議員とともに考え、共有し、発信していく場として開催されました。

各団体からの発表があり、東京都手をつなぐ育成会より、支援を経て同棲生活をされている方の発表。日本ダウン症協会より、好きなものを楽しみながら自立に向けて頑張っている方の発表。東京都自閉症協会より、自身の経験から障害があっても寄り添い、得意なことを伸ばすことが大切なことを感じている方の発表。東京都発達障害支援協会より、親のお墓のある東京で過ごしたいと思ひ、入所施設から引っ越しをした方の発表。東京都知的発達部会からは、本人部会の皆さんにこれから希望する生活についてのインタビューなど、当事者の方々からご自身の経験から暮らしの場を選ぶことへの発表がありました。東京都知的障害児・者入所施設保護者会連絡協議会より、都外施設の高齢化問題、職員の不足などの問題について発表がありました。

その後に行われたパネルディスカッションでは、東京都議会の主要5党派（都民ファーストの

会、自民党、立憲ミライネット・無所属の会、公明党、日本共産党)の方々に登壇していただき、「くらしの場を選べる社会」についてそれぞれの立場からの意見や取り組みについてお話がありました。

最後に主催団体よりアピール文の発表があり、閉会となりました。

アピール文は以下の通りです。

- ①知的・発達障害児者の尊厳を守り、基本的人権を擁護してください。
- ②知的・発達障害児者の暮らしの場を抜本的に整備してください。
- ③障害者が安心して暮らせる仕組みをつくってください。
- ④障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生できる社会の実現を目指した施策をさらに推進してください。

当事者の方が、議員の方々に近い距離で話すことができ、当事者の方々の思いが伝わる貴重な機会だったと感じました。

今回の東京大集会の様子は専用ページにてオンデマンド配信を予定しています。後日、東社協事務局よりご案内がありますのでそちらで改めてご確認ください。

# 令和7年度 東社協研修委員会 『新任職員向け研修～本人中心支援～』 報告

研修委員会 委員長 安藤 修

## 『初めに』

6月20日（金）、『令和7年度新任職員向け研修～本人中心の支援とは～』を開催致しました。講師は日本福祉大学経営学部・教授、並びに社会福祉法人睦月会・理事長の綿 祐二氏です。研修は、この6月開催とフォローアップとして翌年2月開催の、計2回開催になります。

今年は会場選びから考え、睦月会の運営する“りばぁさいど原宿”を使わせていただけないかと綿氏にご相談したところ、快く承諾のお返事がいただきました。

## 『本人中心の支援とは』

まずは、“障害者の捉え方”として、障害特性の括りではなく、一人の人として、Aさん、Bさんという“人”として接していますか？関わっていますか？という視点を全体共有し、一人一人の不自由さの理解を考えることから研修が始まりました。

今回の新任研修の視点として、“横の繋がりの大切さ”にポイントの重きをおいて新任参加者の皆さんが将来的に、“福祉の仕事ってこんなに楽しいんだよ”、“長く続けていきたいな”と、一人でも多くの方が思えるような研修の組み立てにしていきたいとの思いをお聞きしていました。実際に綿氏より、“障害者とは？”“や”障害者が被害にあった事件“等、多くのお話を掲示していただき、グループワークの時間を出来るだけ多く取り、研修が進められました。

## 『グループワーク』

今回、りばぁさいど原宿のホール会場をお借りしたのですが、天井が斜めに高く、開放的で光が差し込む明るい印象を受けました。また声がよく響き、どこからかアロマの香りが漂い心地よい空間での研修でした。

その開放的な場のせいか、グループワークでは沢山の意見が飛び交い、活気が見られました。その中、班内では自然と名刺交換が始まり全体に浸透していきました。最後には、班の垣根を越えて、ホール全体で各々に名刺交換が始まるほどになりました。



## 『ランチ&見学会』

昼食は原宿の街に出る方もいましたが、りばぁさいど原宿の1Fカフェにてランチをする方も多くいました。1Fカフェでは、ご近所の高齢の方、会社員、若者など多くの一般の方々がランチされている中、すぐ横のテーブルではりばぁさいど原宿の利用者の方々が食事介助を受けながら、給食を召し上がっていました。傍らではピアノの生演奏が流れている、まさにインクルーシブな世界観でした。どこにも特別はなく、普段からある当たり前の自然な光景に映り、一言で言うならば…“全てが最先端な事業所”という印象を受けました。

## 『最後に』

綿氏の研修で、必ず伝えているメッセージがあります。新任職員の皆さんへ何が良い悪いではなく、正解不正解でもない。考える事、絶えず学んでいく勉強していくことが大事であると。また、「憧れの先輩を作る」「自分磨きが大事」「自分の経験を豊かに」日々の業務を楽しんで、豊かな生活をしてほしいともおっしゃっています。その言葉の中に、新任職員の皆さんには「本当の障害福祉を学び」「ゆっくりと本物に育ってほしい」というメッセージ（願い）が込められているのだと感じました。

## 『参加者アンケート』

参加者より“他施設の方と話が出来たこと、共感を得られた”、“福祉の面白さを再認識”、“考える時間、理解が深まる、考え直す”等沢山の声がかげられました。特に“他施設の方と話が出来たこと”という意見が多く挙がっていました。次回研修までに、自分自身成長していきたいという意見も多く出ていました。研修委員としても、とても楽しみになりました。

次回、2月のフォローアップ研修では各施設（自主生産品）のプレゼン等を取り入れ、話す・聞く・繋がる・楽しむことをテーマに、研修内容を組み立てていきたいと思います。

来年2月、更なる磨きをかけた新任職員の皆様にお会いできることを楽しみにしています。



# 『障害児入所施設交流会』 について

児童施設分科会 村上 愛美

NPO法人東京都発達支援協会 児童発達支援部会と共催し、6月12日に『障害児入所施設交流会』を実施しました。他施設のスタッフとの交流の機会が図れるように児童施設分科会として初の試みとなります。

どこの施設でも言えることと思いますが、他施設のスタッフと話す機会はほとんどありません。支援について検討する際は施設内の同じ部署のスタッフと話し合っただけで検討することが多く、どの施設も同じような悩みや迷いを抱えながら日々試行錯誤し、目の前のお子さんと共に一喜一憂して過ごし、発達や状態に合わせてそのときの『最善の利益』となるような関わりや環境を考えていく、ということを行っていると思います。「こんなときどうしている？」と障害児入所施設ならではの業務や支援等の“あるある話”がし合えて、働く場所は違ってもお子さんに対する想い・仕事への想いを共有・共感し合えると良いと考え企画しました。

実施場所は日本で最初の知的障害児者のための教育機関・福祉施設である滝乃川学園の石井亮一・筆子記念館の講堂です。参加者の方々に滝乃川学園の歴史にも触れていただけたらという、『滝乃川学園の歴史』について滝乃川学園の乾晶子総合施設長に講話をしていただきました。滝乃川学園の創設者であり「日本の知的障害児者教育・福祉の父」と称された石井亮一氏の生い立ちを詳しくお聞きすることができました。

交流会では4つのグループに分かれてグループワークを行いました。それぞれ話し合いたいテーマを持ち寄って話し合いましたが、どのグループも設定された時間では話足りないほどの盛り上がりでした。余暇時間の過ごし方・職員の育成・他傷行為の対応・自分のなりたい職員像・記録の方法・学校との連携・就職進路の支援など、たくさん情報共有できたと思います。また交流会後は立川で親睦会を行い、そこでも“あるある話”をシェアし合い、大盛り上がりでした。

日々、自分が感じていることを発信したり、自分たちの仕事について共有・共感したり、改めて“自分の仕事は何か”ということを考える機会となるよう今後も企画していきたいと思っています。

## 参加施設名

鹿島育成園児童寮・滝乃川学園・アレーズ秋桜・友愛学園児童部・宮代学園・八幡学園  
港区立障害保健福祉センター放課後等デイ

## 参加者の事後アンケート（一部）

- ・それぞれ施設での困りごとや悩み等共有できて良かった。
- ・他の障害児入所施設の具体的な話しを聞ける機会は初めてだったので、とても良かった。もっと時間が長くあるとよかった。
- ・色々な経験をもった知的障害児入所施設の職員が集まり話す中で、同じような児童がいたり同じ悩みを持っていたりすることに気持ちが軽くなることを感じた。
- ・自分が困っていることを共有したり、逆に意見を述べたり、とても有意義な時間だった。

## 滝乃川学園の石井亮一・筆子記念館



# じんけん Board

わたしの



支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

## <ご利用者にやりほっと>

職員がお腹すいたと言っていると「ハンバーグ食べて」「アイスは？」と気にかけて下さいました。職員を思いやる気持ちににやり。

いつも洗濯物をきれいに畳んで下さってありがとうございます！とても助かっています！

活動中に音楽をながし他利用者が踊っていたとき、楽器入れからタンバリンを取り出して渡していました。おかげでご利用者の方はより楽しむことができていました！さりげない気遣いがステキです！

コップの水をこぼしてしまった際に、「僕が拭くよ」と、ティッシュを持って来て綺麗に掃除してくれました。優しい気遣いに温かい気持ちになりました！

食事が終わった後、自らテーブルを台ふきで拭いてくれました。

午前、午後ともにウォーキングに参加していました！しっかりとペース良く歩いていて素晴らしいです！

## <職員にやりほっと>

夜勤者が来る前に検温や事務作業など色々やってくれました。ありがとうございました。

急遽久しぶりの業務を行いました。事前にほとんど対応をしてくれていました。混乱なく業務を安全に行うことができました。ありがとうございました！

職員用水分補給を注文依頼したところ、在庫量を確認して下さいました。その結果、多く注文していることが発覚し、注文前だったので多く頼まず必要量で注文することができました。ナイス連携プレーでした！

2階フロアの床清掃時、1階に中々降りることができないご利用者に対して当日出勤している職員へ対応・声掛けを周知していました。結果は入ることが出来ませんでした。ご利用者に対しての対応・声掛けを丁寧に周知していた様子ににやりです。

栄養士より嗜好調査の依頼が来ていましたが、料理のイラストを何枚か印刷してご利用者に聞き取りやすいよう準備してくれました。

食事が終わり、お薬をしばらく待ってもらっていましたが、大きな声を出さずに静かに待ってらっしゃいました。その後服薬提供をする際に「大きな声出さないで静かに待たないですか！凄いじゃないですか！」と声掛けをしていました。出来なかった事を注意するのではなく、出来た事に対して称賛する姿勢ににやりとしました。

ご利用者の嘔吐があった際に、嘔吐処理セットを早急に持ってきて下さり、最後に補充もしてくださいました。ありがとうございました。

業務に無い活動室の掃き掃除を率先して行ってくださいました。いつもありがとうございます。

勤務で一緒になるといつも利用者へ肯定的な声掛けをしていて、場が和みます。

支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

声上げる  
それも権利と  
知る勇氣

作：C 1

背景

声をあげること自体があたりまえの人権 ためらいを超える勇氣を!!

もんだいも  
わははとわらえる  
こころもち

作：まいこ

背景

川柳の通り、どんな問題でもプラスに捉える気持ちが大切!  
澄水園 三浦さん

挨拶は  
笑顔で交わせば  
親近感

作：愛しのシナモン

背景

日々の支援や私生活の中で感じる疑問や悲しい気持ちを5・7・5に乗せてみました!

出来ない  
決めつけないで  
悲しいよ

どれにする?  
聞くその一言  
花が咲く

背景

利用者さんの意見を聞かずに、支援者が決めてしまっている。そんな場面を見たことあるのではないでしょうか。選択が難しい利用者さんでもまずは聞く。それか、分かるように提示をする。一人ひとりにあった支援をしていきたいという思いを込めました。

届けよう  
平等という  
当たり前

作：せな子

背景

川柳の通り、皆一人ひとりに平等を届けたい一届けの気持ちで働いています。

ちよっとまって  
いつまで待つの  
先見えぬ

背景

「ちよっと待って」とよく言ってしまうけれど、これはスピーチロック。  
気を付けていこうという気持ちを込めました。

## 投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「川柳ぼーど」

①の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

②の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

### 手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

### FAXの場合

03-3268-0635  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

### メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局  
chiteki@tcs.w.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」  
とタイトルをつけて送信してください。

## 施設紹介

# 社会福祉法人しあわせ会 白州いずみの家

### 自然に囲まれたあたたかな施設

白州いずみの家は、南アルプスのふもと、自然豊かな北杜市白州町にある障害者支援施設です。四季折々の風景の中で、利用者の皆さんが安心して毎日を過ごせるよう、心のこもった支援を行っています。

### 一人ひとりを大切に

利用者の個性や希望に寄り添った「その人らしい生活」を大切にしています。一人一人が個室という環境の中、好きな物、好きなこと、好きな人と繋がりを持っています。日々の暮らしの中で、自分でできること、好きなことが少しずつ増えるよう、丁寧にサポートしています。

### 自慢の大浴場

八ヶ岳を望める自慢の大浴場があります。円形づくりの形状で広く景色を楽しむことができます。白州いずみの家では入浴好きの利用者の方が大勢おり、毎日入浴の時間を楽しみにしています。

### 地域の方が作る美味しい食事

白州いずみの家の食事は創立以来こだわりを持ち直営で提供しており、調理員は地域の方を採用

しています。旬の食材を使用したおかずは利用者、職員ともに大人気です。特に「いずみ定食」と呼ばれる、主菜（豚肉、厚揚げ、キャベツを炒めたもの）、小鉢（納豆かとうろろ芋）のメニューは一度は食べてもらいたい鉄板メニューとなっています。

### 個性豊かな職員たち

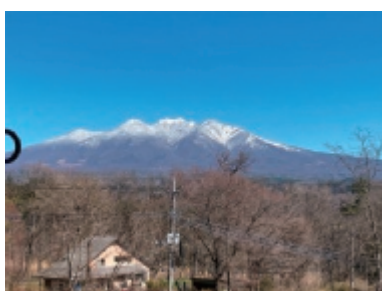
白州いずみの家を彩るのに欠かせないもの、それは個性あふれるスタッフ達です。福祉系出身の方たちでなく多種多様な職種からの転職者があり、お互いに刺激し合える関係性が築けていると自負しています。趣味を持つ職員も多く、年に一回実施している社内研修会では仕事に活かせる趣味を持つ職員が講師を行い、スキルアップと共に親睦を深める機会となっています。

### いずみのように、やさしく

「白州いずみの家」という名前には、利用者一人ひとりの力が、静かに、でもたしかに広がっていくことを願う思いが込められています。これからも、やさしさと安心のある場として、歩み続けていきます。



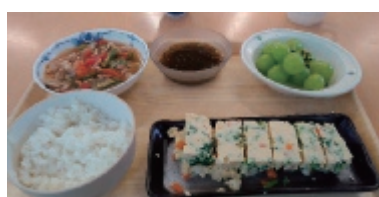
白州いずみの家外観



施設から見える八ヶ岳



夏季研修



食事の写真

## 施設紹介

# 社会福祉法人友愛十字会 港区立障害保健福祉センター

・港区立障害保健福祉センターは、現在浜松町駅直結で開発されている芝浦ベイエリアにある「BLUE FRONT SIBAURA」をモノレールで挟んだ向かい側にセンターがあります。23階建てビルの1階から8階まで、社会福祉法人友愛十字会が指定管理にて事業運営をしています。

↑	区民向け住宅 シティーハイツ竹芝
8F	■短期入所
7F	▲竹芝小記念ホール・会議室・集会室
6F	■事務室・▲多目的体育室・相談室・専門医相談室 ■地域支援活動支援センター
5F	■機能訓練室・図書談話室・パソコン練習室 ●共同活動室 ●みなと障がい者福祉事業団
4F	▲温水プール・給食室・機械浴室・家族浴室
3F	■みなとワークアクティ(就労継続B型事業所) ●港区立発達障害者支援室 多目的室・調理室
2F	■工房アミ(生活介護事業所)
1F	■重心型放課後等デイサービス(医療的ケア児も含む) ■みなのカフェ タンポポ(喫茶コーナー)
B1F	駐車場
↓	倉庫等

### ・地域支援活動センター

運営事業内容は、相談支援、自立訓練・学齢児も含む機能訓練、地域自立生活支援、入浴サービス、発達支援室など、提供しているサービスは多岐にわたります。

障害のある方が自立した日常生活を営むことができるよう、創作的活動や社会との交流の促進、地域への障害者福祉に関する普及啓発活動など、実情に応じた支援を行っています。



調理実習

### ・みなとワークアクティ(就労継続支援B型事業所)

みなとワークアクティでは、日頃の生産活動の他に、社会体験の機会や余暇活動の充実、社会性や自立性の向上を目的とし、宿泊訓練やバス外出などの行事も実施しています。様々な活動を通して、利用者の皆さんが地域や家庭でより充実した生活を送ることができるよう支援を行っています。



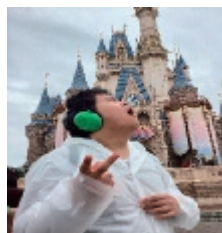
宿泊訓練



バス外出

### ・工房アミ(生活介護事業所)

活動では、利用者さんの好きなことや得意なこと、それぞれの強みを活かせるような運動・作業プログラムなどを実施しています。また、運動会やスイカ割りなど季節のイベントに加えて宿泊訓練も行い、多くの経験を重ねていただき、利用者の方々の自立や意思の表出、意思決定のお手伝いができればと思い日々支援をしています。



宿泊訓練



運動会

### ・短期入所

利用者の自立支援やご家族の介護負担軽減等を目的とし、利用者個別の状況に応じた支援を行っています。365日、学齢児から成人の方まで幅広くご利用いただいています。

### ・重心型放課後等デイサービス

放デイは、20名定員の医療的ケア児も含む重症心身障害児主体の放課後等デイサービスです。季節の行事やプール、バスドライブ、運動や制作、リトミック、デジリハ、スヌーズレンなどなど、たくさんの活動を通し遊ぶ中で、健康で元気に楽しい毎日がおくれるよう支援していきたくと思っています。



お散歩



夏祭り

## 青い鳥が大事にしていること

社会福祉法人 日野青い鳥福祉会 統括 井上 純司

青い鳥の作業活動のスタイルはリサイクルショップやパン販売などで、ニコッと微笑んで会釈できるだけでもOKです。これを青い鳥では『スマイルワーク』と呼んでいます。地域に根差して活動してきたリサイクルショップやパン事業は、利用者にとって社会との窓口になります。障害が重くても関われる方法を模索しつつ、触れ合う市民の皆様から「ありがとう」や「頑張っているね」をもらいます。彼らのやりがいやプライドを大事にしています。工賃の切り口も大事なのですが、お金には代えられないことがスマイルワークには秘められていると思います。

また、月に一度のパンの感謝デーやリサイクルショップにお品物を頂いた時のお礼に、青い鳥の『画伯』が描いたポストカードを粗品としてお渡ししています。お客様の中にはファンもあり、好評をいただいています。作品を丁寧に描く方もいれば、一見すると殴り書きのように勢いで描く方

もいます。知的障がいの方たちの感性から豊かな作品が多く生み出されており、彼らのエネルギーや思いがとても良く表現されており、独特の良さを感じます。

人から応援をたくさんもらわないと色々なことがままならない障害の重い方もいます。彼らの良さに着目して、関わる職員と一緒に取り組む、楽しさや豊かさを知ってもらい、この方たちも社会の一員なのだと思われればと思える毎日です。



## 編集後記

夏が過ぎていき、少しずつ涼しさが出てまいりました。振り返ると、今年の夏は本当に暑く、酷暑と連日ニュースになっていたのも耳に残っています。そんな中、各事業所の職員のみならず、活動内容など、利用者とともに楽しんで生活していくかと様々な工夫を行っていることと思います。そんなみなさまの工夫を知りたい、語り合いたいという思いもあり、集合型の研修などに参加させていただいています。ぜひ皆さんとお話しさせていただくのを楽しみにしつつ、今後も研修の様子も一緒にお伝えしていきたいと思っています。

(葛飾通勤寮 村上 翔)